



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年 7月受診者数：3298人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 2362人 (1943人)
2. 咳 : 756人 (143人)
3. 発疹 : 596人 (375人)
4. 嘔吐 : 547人 (159人)
5. 鼻汁 : 523人 (10人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 1378人
2. 手足口病 : 480人
3. 感染性胃腸炎 : 328人
4. 気管支炎・肺炎 : 153人
5. 気管支喘息 : 153人



今月のワンポイント!



今年は例年より早く梅雨が明けたものの、7月は各地で大型の台風に伴う大雨に襲われました。不安定な気象条件のもとでは、喘息発作が起こりやすいと言われています。こども急性疾患学部門では、7月16日に「こどものアレルギー」をテーマに公開講座を開催し、多くの市民の方にご参加いただきました。今後も公開講座を行っていきますので、ホームページの情報をチェックして下さい。

さて、7月は3298人の患者さんが、神戸こども初期急病センターを受診しました。先月から発疹の症状で受診される患者さんの数が増加していましたが、今月は、「発疹」が患者さんの訴えの第3位となりました。その多くが手足口病で、患者数も、感染性胃腸炎を抜いて、第2位となりました。兵庫県感染症情報センターからの報告でも、6月から増加していた手足口病の患者数は、7月に入っても増加を続け、7月半ばにピークを迎えました。7月後半になると、学校・幼稚園が夏休みになったこともあり、患者数は減少に転じています。手足口病はウイルス感染症で、飛沫感染、接触感染、糞便を介した感染によって広まりますから、保育園や幼稚園などでは、手洗いの励行と排泄物の適正処理が大切です。



ヘルパンギーナも流行しています。ヘルパンギーナは夏風邪の一つで、38~40度の高熱が数日続き、喉にできる小さな水疱が痛み、飲食しづらくなるという症状がみられます。こちらも7月の半ばをピークとして、患者数は減少に転じています。手足口病もヘルパンギーナも、時に髄膜炎などの合併症を認めることもありますので、注意深く様子を見てあげることが大切です。頭痛や頻回の嘔吐がみられたり、ぐったりしているなどいつもと様子が違うときは、早めに受診して下さい。

この季節は、感染症だけではなく、熱中症に対する注意も必要です。節電は大切ですが、適切な室温管理をして下さい。水分補給も忘れずに。